

特別講演

北彩都病院における透析医療マネジメント 管理システムとチーム医療で高齢化に立ち向かおう！

北彩都病院副院長・透析センター長 内科 石田 真理 先生

【はじめに】

北海道旭川にある北彩都病院は、旧石田病院として1968年に北海道の民間病院で初めて血液透析を開始しました。現在は本院クリニック合わせて450名の血液透析患者と70名の腹膜透析患者を抱えています。冬は-20度を越し夏は30度を超える気温差のある北国で、透析患者は全国同様に導入年齢が上昇しています。最近では80歳代の導入も多く、また、透析患者の高齢化もすすみ、認知症による自己管理不良や通院困難といった状況が生じてきています。通院圏も広く、通院に片道4時間かけてくる患者もいます。これらの問題は長野県も同様だと思います。今回は、当院が取り組んでいる透析医療マネジメントの工夫についてシステムからチーム医療で支える高齢者透析の実際についてお話します。

【透析室運営】

本院血液透析室は患者350名に対してナース、臨床工学士合わせて40名のスタッフで管理しており（8：1）少ない人数でミスのない運営のために、独自の「透析管理システム」を10年前よりシステム会社と共同で開発しています。この透析管理システムにより、ベッド管理から透析条件、投薬服薬管理、患者情報などを一元管理できます。このシステムは電子カルテや会計、経理ソフトともインターフェースを通して連動しています。

【CKD 患者管理】

同様に開発した「CKD 患者情報管理システム」を利用して、当院においてはタンパク尿や血尿でかかったその日から、患者情報や診療情報をCKD 患者管理ソフトで一元的に情報管理を行っています。また、腎臓病専門ナース（CNN）という院内資格を作り、CKD 患者への情報提供や面接を行いきめ細かい看護を目指しています。

【ナースによる療法選択外来】

当院では腹膜透析の導入率も高く、移植も院内では行っていませんが、市立病院と連携しています。患者へのより多くの情報提供のためにCNNの活動の一つとして導入前の療法選択の説明を医師の指示のもとナースが行っています。患者へより多くの選択肢を提示できることが重要と考えます。

【その他】

腹膜透析専任ナースの設置、地域連携の取り組み、日本腹膜透析研究会認定研修施設としての活動などについての取り組みをお話します。

医療法人仁友会 北彩都病院
副院長、透析センター長 石田真理

《略歴》

昭和62年 北里大学医学部卒業
昭和62年 北里大学医学部脳神経外科入局
平成11年 仁友会石田病院（現北彩都病院）内科 勤務
16年 仁友会北彩都病院透析センター長
17年 同 副院長

《所属学会》

日本内科学会
日本透析医学会
日本腹膜透析医学会
ISPD 国際腹膜透析研究会
日本糖尿病学会

《主な研究テーマ》

二次性副甲状腺機能亢進症の治療戦略
CKD-MBD
高齢者透析
腹膜透析と在宅医療、地域連携

旭川駅の直ぐ真横にある仁友会北彩都病院（旧仁友会石田病院）は血液透析350人腹膜透析60人を抱え、透析基幹病院として地域医療に貢献しております。

特に腹膜透析においては高齢者にも積極的に導入しており、在宅医療の推進と患者とその家族のQOLの向上を目指し日々努力しております。